

安全無事故操業を祈願

西之表澱粉工場操業式

【10月7日】西之表澱粉工場で、操業式が行われ、関係者ら約30人が出席しました。

10月12日からの本操業に向け、操業期間中の無事故無災害・甘しよの豊作を祈願しました。

今期の澱粉用甘しよは、種子島管内で、面積982ヘクタール(前年1,067ヘクタール)で、単収56.6俵の見込み。

【本操業】

令和2年10月12日(月)

～11月30日(月)



種子島しきみ生産組合

病害虫対策研修会

【10月24日】種子島しきみ生産組合は、南種子町で病害虫対策研修会を開き、約55人の生産者が参加しました。

圃場視察では、優良品種や仕立て方等の検討が行われました。新規生産者も多く、経験豊富な生産者からアドバイスを受ける等の活発な意見交換がなされました。

研修会では、病害虫の特徴や対策の説明があり、多数の質疑がありました。同組合の古市組合長は、市場情勢や消費者ニーズに合わせた出荷調整を行いたいとし、意志統一を図りました。

当JAでもしきみの取り扱いが本格化され、枝物の増産体制構築に向け体制を整えて行きます。



さとうきび栽培の省力化

ビレットプランター実証試験

【10月1日】中種子町さとうきび植付プランター利用組合は、ビレットプランター(最新の植付機)の実証試験を実施しました。省力化を図り作業効率の改善や人件費の削減が狙いで、生産者、関係機関係合わせ約100人が参加しました。

さとうきび栽培では、収穫と採苗作業がもつとも労働負担がかかります。ハーベスターの普及により収穫作業は格段に省力化されましたが、採苗作業は、どうしても手作業となります。

ビレットプランターは、ハーベスターで採苗した苗をそのまま使用できるため、省力効果が高く、近年他産地で導入されつつあります。

高齢化や栽培面積減少の対策には機械化が必要不可欠で、ビレットプランター導入によりさらなる規模拡大等が期待されます。

